

知多市人口ビジョン 概要版

期間：2015(平成 27)年度～2060(平成 72)年度

「知多市人口ビジョン」は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国の長期ビジョン及び総合戦略を踏まえ、**人口の現状、目指す将来の方向、2060年までの人口の将来展望**をまとめたものです。

人口の現状

人口推移

- 住民基本台帳ベースでは、2009年をピークに減少
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2040年に約76,000人にまで減少
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した独自推計では、2060年には約64,000人にまで減少

自然増減

- 2013年から継続して自然減。今後も継続の見込み
- 合計特殊出生率は1.52で、愛知県内54団体中35番目〔全国平均1.38、愛知県平均1.51〕

社会増減

- 2009年から継続して社会減
- 男性は、20歳代、30歳代では就職等により転入超過
- 女性は、20歳代後半から30歳代前半では結婚等により転出超過

人口構造

- 総人口に影響を与える自然増減（出生・死亡）と社会増減（転入・転出）の影響度合いは、ほぼ同程度
- 女性の労働力状態について、子育て期の離職が低下
- 共働き世帯は、44.2%〔全国平均41.3%、愛知県平均45.7%〕
- 老年人口の割合は、2010年に20.6%、2040年に32.7%、2060年に34.0%
- 昼夜間人口比率は、78.0%〔愛知県平均101.5、知多半島5市5町で最も低い水準〕
- 通勤・通学率は、市内34.1%、愛知県内他市町60.5%で、ベッドタウンとなっている。
〔特に通勤・通学率が高いのは名古屋市への19.1%と東海市への16.9%〕

住民アンケート(対象：市内在住の20歳以上49歳以下の市民2,000人 有効回収数653票 回収率32.7%)

- 知多市に「とても愛着がある」「多少愛着がある」と感じている市民の割合は、76.0%
- 知多市は「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」と感じている市民の割合は、71.7%
- 知多市は「子育てしやすい」「どちらかといえば子育てしやすい」と感じている市民の割合は、61.4%

事業所アンケート(対象：市内に所在する事業所500か所 有効回収数218票 回収率43.6%)

- 建設業、医療・福祉の業種では正規従業員が不足し、雇用を増やしたい事業所が多い傾向
- 医療・福祉、卸売・小売業の業種ではパート・アルバイトが不足し、雇用を増やしたい事業所が多い傾向

目指す将来の方向

まち

- ◆海や緑を身近に感じる自然の豊かさの中で、若者・女性・子育て世代・高齢者など、多様な市民一人一人が暮らしやすさを感じられる知多市の基盤をつくる。
- ◆人口減少を克服するために、様々な仕掛けをつくるとともに、知多市の魅力を磨き上げる。

ひと

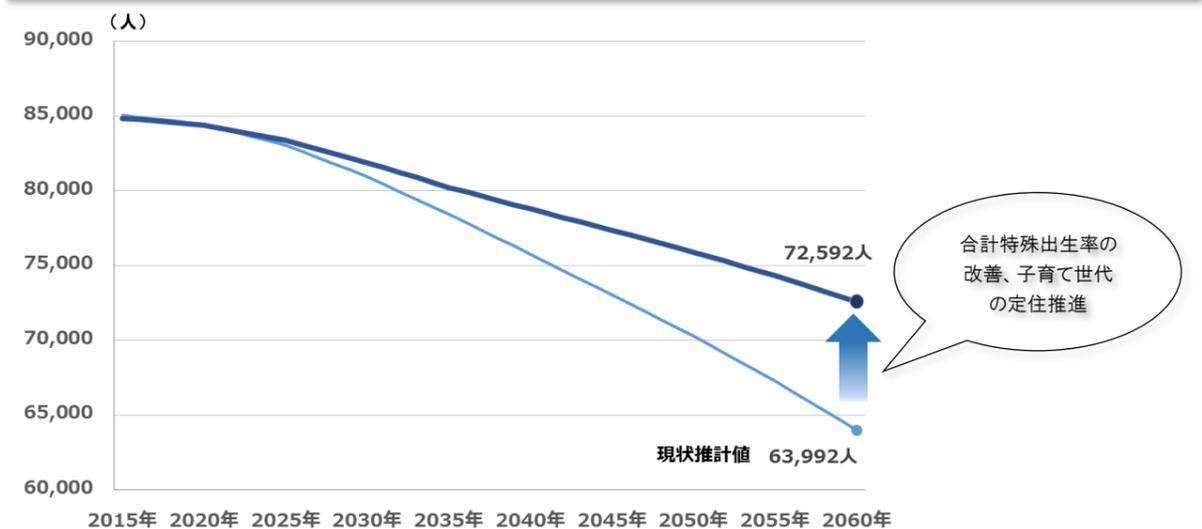
- ◆知多市のブランド力を高め、魅力を発信し、知多市へのひとの流れをつくる。
- ◆若い世代の希望をかなえ、安心して子どもを産み育てられる環境をつくる。
- ◆若者・女性・子育て世代・高齢者などの多様な視点やスキルを生かし、地域づくりの次代の担い手を育成する。

しごと

- ◆知多市の立地条件を生かし、企業誘致や創業支援により、しごとの場をつくる。
- ◆若者・女性・子育て世代・高齢者などのチャレンジを後押しし、小さくともしごとや活動の場、稼ぐ力を創出する。

人口の将来展望

人口減少の克服に向け、目指す将来の方向に沿って「知多市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、戦略に掲げる施策の効果により、**2060年に人口70,000人を確保**します。



- ◆合計特殊出生率は、現在の1.52から、2030年までに国が示す国民希望出生率である1.80へ、2040年までに人口置換水準である2.07へと段階的に改善するものと見込みます。
- ◆移動率は、子育て世代(0～9歳、30～49歳)の転出超過分の移動率を、2020年までに4分の3に、2030年までに2分の1に、2040年までに均衡するものと見込みます。